

NO-MAのくまり

以身伝しんぶん

「近所、牛乳受け」コレクション

NO-MA界隈を散策するとレトロな牛乳受けに出会うことが多い。



近江八幡と言えば八幡堀、たねや、重要伝統的建造物保護地区、ヴォーリズ建築など様々な魅力に惹かれて多くの方が訪れるまち。一方、近江八幡には古くからは3社の牛乳工場があることをどれほどの観光客がご存じだろうか。牛乳瓶やふたのコレクターには「近江八幡は牛乳のメッカ」という人もいる。

NO-MA界隈を歩くと、重要伝統的建造物などにかかる牛乳受けに惹かれる人もいます。現在開催されている「以身伝しんぶん」の第2会場、奥村家住宅も例外ではなく、入口には白い牛乳受けが。またその会場内にも今期はNO-MAから牛乳受けが出張している。

NO-MAにお越しの際には、界限の牛乳受け探しの散策をしてみるのも新たな魅力の発見につながるかもしれない。

(記者 相馬)

そうざいやん三松

10月30日(火) 曇り

今日は1時30分から奥村家のポランテアに入る予定。12時過ぎに近江八幡に着く。時間があるのでNO-MAの近くで食事を探すが火曜日は休みか？みんな閉まっている。うろうろしていたら永原町尾賀商店の向かいに三松の看板。その下に見逃しそうな看板が、そうざいやんとある。古そうな町家だが表のガラス戸越しに総菜が並び4〜5人の人が居る。入るとニコニコ顔の店のおばさんとお盆に白い4ツに分かれた皿を持って総菜を選んでいる3人。壁に奥



美味な総菜は、後半のスタッフ業務への活力

NO-MAのちっちゃなおまつり

釣瓶落しの秋の日。午後5時前には陽が沈み、紫色に染まる空に、細い月がかかっている。辺りが薄暗くなり始めたこの時間、NO-MAの「ちっちゃなお祭り」に立ち寄ってみる。NO-MAから程近い八幡児童公園。可愛らしい屋台、煙突のついた薪ストーブが点



会場は近隣の公園。ゲルも出て、いい雰囲気。

々と見える。ネイティブ・アメリカンのテントみたいなものもある。中には小さな子供たち。なんだから、とても楽しそう！大人たちはばちばち燃える火の番をしながら、お芋を焼いたり、焼きおにぎりにチャレンジしたり。銘々、温かい飲み物など楽しみたい。知らない同士もいつの間にか焚火の周りで話に花が咲いている。火のぬくもりが、気持ちの垣根をどこかに追い払

つてくれるみたい。そういういえば、昔は自分の地元でも、近所の人たちが廢材を持ち寄り、マンホールの上で焚火していたなあ。おばちゃんたちがお喋りを楽しみ、通りかかった人に、「あたっていったら？」と声をかけていた。そんな昔のことを思わず思い出させてくれた、「ちっちゃなお祭り」。これも、五感で楽しめました！

(記者 辻純)



竹間記者撮影(ちょっとピンボケ)、フランスの二人とプリンちゃん。

「謎のアスに、アンニュイに、くつろいで、優雅に、いたずらっ子に、セクシーに、踊りながら、楽しませてくれる。」

(鎌田作品について 記事本文より)

重なる日本語とマナーを教えた誰かが居たとしても考えられない。これを教本にして入国する人に教えたら・・・と考えたがまず日本人に教える方が先か？

(記者 竹間)

奥村家、ふいに国際交流

プリンちゃんの場合にて

11月12日(火) 曇り 奥村家のポランテアに入る。玄関口のインパクト人形達に挨拶。今回の展示会場の白眉は鎌田さんのディスプレイだ。(と個人的に思っている)この展示の始まる前日、奥村家で事前研修が行なわれた時、別の部屋で一人大きな顔を持った人形達にメイクをしていた人が作者の鎌田紀子さんだった。一人だった

が何か楽しそうで「この作品は男？女？」と聞いたら「どちらでも見た人の感性で受け止めたら」との答。ピツクリする程バランスを崩した大きな顔、飛び出した目や歯の人形達と並んでいた。展示会が始まったら、古民家の住人の様なくつろいぎいたずら好きの人形達がいっぱい。みんな名前を持っていった。上がりにいる「双子のプリンちゃん」。こいつは記念スポットになる！三つの部屋、出窓、欄間、階段、床の間、廊下、襖の引手、障子の棧、扁額、畳の中央、あらゆる所で顔を出し、あちこちに、アンニュイに、くつろいで、優雅に、いたずらっ子に、セクシーに、踊りながら、楽しませてくれる。鎌田さんが古民家を楽しんでいる、飾り付けていったのでは。3時前フランス人の男女が登場。入場券をNO-MAで買うように何とか伝える。しばらくして再登場。丁寧にトレッキングシューズを揃え、ニコニコしながら庭から蔵までゆっくり見学。米田さんの作品を一つづつタッチして楽しんでいる。帰り際シューズの紐を結んだ所でプリンちゃんと記念撮影。「アリガトウゴザイマシタ」と言って凄く丁寧に教本にしていた。日本人よりはおじぎをされた。でびつくりだった。丁寧な日本語とマナーを教えた誰かが居たとしても考えられない。これを教本にして入国する人に教えたら・・・と考えたがまず日本人に教える方が先か？

(記者 竹間)



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club